



んだじゅ通信

vol.24

Contents

- ✪ 新病院の開院にあたって
- ✪ 救急科が開設されるにあたり
- ✪ 転入医師紹介
- ✪ 在宅後方支援病院について
- ✪ すがはら内科クリニック

山形県立新庄病院 地域医療部

〒996-0025 新庄市若葉町12番55号

TEL.0233-22-5525 (代表)

FAX.0233-28-7277 (直通)

令和5年 3月発行

新病院の開院にあたって 新庄病院長 八戸 茂美

令和5年の年が明け、いよいよ秋には新しい新庄病院が開院いたします。令和3年2月に建築工事が始まって以降、新型コロナウイルスの世界規模での感染拡大やロシアによるウクライナへの侵攻による物流の停滞等の影響を受け、一時は工事遅延の懸念もありましたが予定通り3月には建物が完成する運びとなり、関係者一同、安堵しております。今後は、10月1日の開院に向け、医療機器の調達や診療手順の確立、職員の習熟研修、そして何より現在の建物が出来たとき以来50年ぶりの大仕事となる引越しに向け、準備を進めております。

新病院では診療科が増えるほか、新しい機能が数多く付加され、そのうちのひとつが「地域救命救急センター」です。新病院では地域救命救急センターに専用病床10床を有し、24時間体制で重篤救急患者に対し高度な救急医療を提供いたします。さらにドクターヘリ専用のヘリポートも完備し、地域の救命救急体制の大幅な充実・強化に繋がるものと確信しております。さらに、救急関連では、この1月に、蔵王協議会並びに山形大学医学部のご高配により本院に常勤の救急科専門医が配置され、21番目の診療科として「救急科」を設置いたしました。

また、地域の夜間・休日の初期救急医療体制として現在新庄市が運営している「夜間休日診療所」の機能を新病院開院時に地域救命救急センターに移転します。同診療所の運営にあたっては、ご多忙の中、新庄市最上郡医師会会員の先生方にご協力をいただくべく、県や市と連携し調整を進めております。

新病院開院まであと半年余。万全の体制で開院日を迎え安全・安心・信頼の医療提供するための検討課題はまだありますが、職員一丸となって尽力しますので、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。





救急科が開設されるにあたり

救急部副部長 救急科医師 高橋 一則

2023年1月に救急部副部長に着任しました、救急科の高橋一則と申します。これまで山形大学医学部附属病院をはじめ日本の様々な地域で救急医療、集中治療、災害医療を学んできました。そこで得られた知識や経験をここ最上地域で活かして、10月に新しく設置される地域救命救急センター発展の一助となれるよう尽力したいと思います。



地域医療に思うこと

救急医療と一言で申しましても、実際に求められるものはその地域ごとに大きく異なります。どの地域にもそれぞれ固有の課題があるため、山形県立新庄病院の地域救命救急センターで必要とされる機能をしっかり見極めて実践していくことが大切と考えます。

当院は最上二次医療圏で唯一の中核病院であり、その担当する面積は広大です。その中で一次医療から三次医療までを幅広く対応することが期待されており、その声に応えることができるよう体制を整えている最中です。

突然の全身状態悪化や強い症状を認める救急搬送患者から、体調不良を訴え自ら歩いて受診する方まで多くの患者の診療を同時に行うため、効果的かつ効率的に診療が行えるような人員、場所、機材、診療システムを病院全体で検討しています。



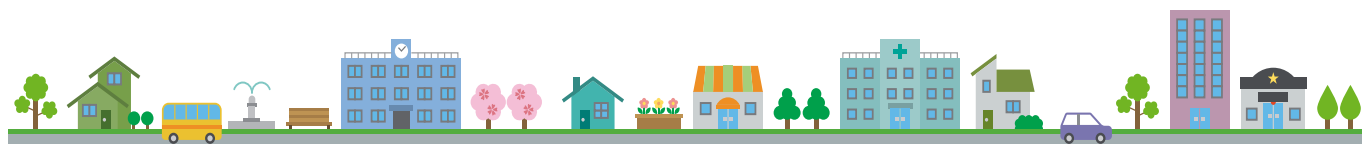
お伝えしたいこと

一方で救急医療は患者やその家族のみならず、他の医療機関や施設、消防、各診療科、医療スタッフまで一緒になって活動することが必要不可欠です。それぞれが密に連携して一つの目標に向かって進むことで、より良い診療が行われるようになります。

診療情報提供書を用いた情報共有のみならず、ときに電話で直接意見交換を行いながらより良い関係を築いていきたいと思っております。

最後に

最上地域で救急医療が発展することは、患者だけでなく地域の医療機関及び福祉機関を含めた多くの皆様に安心や信頼を提供し、結果的に地域全体の医療の向上に寄与できると思っております。地域医療に貢献すべく努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。





転入医師紹介



医師 高橋 一則 【専門分野】 救急科

【資格】救急科専門医

1月1日付で山形大学医学部附属病院から赴任した救急科の高橋と申します。山形県長井市出身です。最上地域に新しく設置される地域救命救急センターのお手伝いができるよう精一杯努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。



医師 奥田 正太 【専門分野】 整形外科

新庄病院、2度目の赴任になります。地域医療に貢献できるよう励みたいと思います。よろしくお願いいたします。



医師 安孫子佑子 【専門分野】 耳鼻咽喉科

10月15日付で山形大学医学部附属病院より赴任しました。耳鼻咽喉科の安孫子と申します。来年度より異動となるため、半年と短い期間でしたが大変お世話になりました。

また新庄病院で働かせて頂く機会がありましたら最上地域の医療に少しでも貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

在宅療養後方支援病院について

当院は令和4年10月から、「在宅療養後方支援病院」となりました。「在宅療養後方支援病院」とは、在宅医療を提供している医療機関(以下「連携医療機関」といいます。)と連携し、訪問診療を受けている患者さんの急変などの緊急時にスムーズに入院を受け入れる体制を整えることで、連携医療機関を支援する役割を担う病院です。現在当院は、最上地域にある4つの医療機関と連携を結んでおります。在宅療養中の患者さんが、緊急時に当院への入院を希望する場合、かかりつけの連携医療機関及び当院へ登録していただきます。登録時に連携医療機関と当院との間で、患者さんの状況について情報共有を行い、また、その後も3か月に1回程度、登録状況に変更がないか継続して情報交換を行っていきます。

現在は登録対象の患者さんを、パーキンソン病関連疾患の一部や筋萎縮性側索硬化症など、特定の疾病がある方に限定しておりますが、新病院移転に向けて登録対象を拡大することを検討しております。今後も、最上地域の在宅療養中の患者さんと在宅医療機関をより一層支援できるよう努めてまいります。



開院に寄せて

すがはら内科クリニック



令和4年11月に新庄市沖の町で「すがはら内科クリニック」を開院いたしました。院長の菅原心平(すがはらしんぺい)です。

私は県立新庄病院で出生し、その後、新庄小学校、新庄中学校を経て新庄北高校と、大学へ進学するまで新庄で過ごしました。

山形大学の入試の面接では、面接官の医学部教授に「あんな雪深いところに行くのではなく、海外へ羽ばたいてみるつもりはないか？」と問われたのに少しムツとして、「私は生まれ育った新庄で医師をするためにここを受験しました。医師になったら新庄で働きたいです」と言って合格したのが20年前です。医師になってからも、地元での勤務を切望しておりましたが全くその機会に恵まれず、このたび一念発起し開業に至った次第です。

専門は消化器内科、特に膵・胆道領域です。新庄最上地域には膵・胆道を専門としている消化器内科医はいないと聞いておりました。手薄な領域で少しでも地域の医療の質の向上に寄与できればと思います。

また、私はこれまで数多くの内視鏡検査を経験してまいりました。胃カメラや大腸カメラは苦痛の伴う検査ではありますが、なるべく安楽に検査を受けてもらえるように研修医時代より腕を磨いてきたつもりです。検査中のスタッフによる声かけなどの気配りや、検査中好きな音楽を流せるなど、患者さんが安心して検査を受けられるような環境整備を心がけております。新庄最上地域は内視鏡医の絶対数が足りておりません。必要なときにすぐに必要な検査が受けられるような、地域の皆さまが安心して暮らせる医療環境を目指しております。

現在、医療事務4人、看護師4人の体制で診療を行っております。患者さん一人ひとりに寄り添うことができる、やさしいスタッフが集まってくれました。病気そのものではなく「ひと」を診ることができる、そんな質の高い医療を提供し続けることができるように、スタッフ一同、努力してまいります。

よろしくお願いたします。



【経歴】

- 1984年5月 山形県立新庄病院で出生
- 2010年3月 山形大学医学部卒業
- 4月 山形大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター
- 2011年7月 日本海総合病院 消化器内科
- 2014年10月 小国町立病院 内科
- 2015年4月 山形県立中央病院 消化器内科
- 2016年10月 米沢市立病院 消化器科
- 2017年4月 山形大学医学部 内科学第二講座(消化器内科)
- 2022年1月 日本海総合病院 消化器内科
- 11月 すがはら内科クリニック

【資格・所属学会等】

- 医学博士
- 日本内科学会 認定内科医
- 日本消化器病学会 消化器病専門医
- 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
- 日本膵臓学会
- 日本胆道学会

投稿募集中!

「んだじゅ通信」では、地域の医療機関や福祉施設等からの投稿を募集しております。日頃の取り組み、施設情報、お知らせしたいこと等ありましたら、新庄病院地域医療部までご連絡ください。発行は、年3回程度を予定しております。

